

# がんばろう中越!よみがえれ新潟!

一日も早い復興のために

昨年はふるさと新潟県にとって試練の年となりました。7・13水害・台風・中越大地震と多くの皆さんが被害に遭われ今もご苦労をされていることと想います。被害に遭われた多くの皆様には心よりお見舞い申し上げます。特に10月23日に発生した中越大地震は新潟県民のみならず多くの人々にとって忘れることのできない出来事となりました。私は被災地を訪れた際の現地の要望と、経済界の皆さんと協議した支援策を基に、政府・自民党に復興の復興の陳情を行わせて頂きました。今年も復興に向けた新たなスタートの年です。今後とも皆さんの声を国政に伝えるべく全力で取り組んで参ります。



<中越地震復興支援の要請> 泉田県知事とともに、中越地震の復興・復興支援の要請に各省庁を訪問。写真は麻生総務大臣との会談風景。



<山古志村「高野ファーム」を視察> 農水省、県に支援を要請する為高野ファームを視察。干頭を超える牛の救助のお手伝い。



<長岡イチロー会新春の集い開催> 山古志村長島村長を招いて復興に向けた熱い思いを分かち合う。



<新潟県庁案内> 長岡ベンチャークラブのみさんとともに被災地の子供達を県庁やマリニピア日本海に案内。

「安全に夢のある楽しい新潟」をつくる

中越大地震の影響は被害に遭われた多くの皆さんと共に、観光産業などの県内主要産業全般に及びました。これからは地震からの復興とともに、災害に強い「安全で安心な地域づくり」を目指していかなくてはなりません。それと同時に地方の時代に勝ち残れる、夢のある楽しい新潟」を創ることが重要だと思えます。

三位一体の改革により、地方は発展する地域と衰退する地域の格差がより一層広がると考えられます。特に東京一極集中と地方の格差は今後も一段と広がることとが予想されます。しかし、東京の一極集中は災害などの発生リスクから考えても大きな問題があります。政府の試算では「首都直下型地震」の経済被害は最悪のケースで約120兆円(阪神大震災の約9倍)とのことです。その意味でも新潟県のように東京大都市圏に近い地域が日本海側のもうひとつの経済補完機能を持つことは大きな意味があります。新潟県を防災立県として首都圏の企業の危機管理機能を集約することが可能だと思えます。

また、危機管理機能だけではありません。新潟には、他県と比較してもけつて引けを取らない自然、文化、そして新幹線空港、港湾といった社会基盤が揃っています。北東アジアとの玄関口として大きな発展の可能性を秘めています。しかし、現在は、これらの機能を十分活かす切れていません。その理由はソフトウェアが

不足しているからではないでしょうか? 新潟経済圏の発展には交流人口の増大が不可欠だと言われます。ではどのようにすれば多くの人が新潟を訪れてくれるのでしょうか? 確かに新潟独自の米や酒の文化を売り出すことも大事です。しかし大きな交流人口を生むためにはやはり人を呼び込む新たな仕掛けが必要です。東京で流行りのスポット例えば「ディズニランド」お台場、六本木ヒルズなどに共通するのはすべて全く新しく開発された施設だということです。こうした民間の施設を新潟に誘致することも工場の誘致と同様に重要な景気刺激策です。新潟市の万代島や計画が予定されている県営球場にアウトレットモールを併設、佐渡にカジノやディズニランドのようなレジャー施設を...夢のような話に聞こえるかも知れませんが決して不可能ではありません。

今後、最も海外旅行の潜在的な顧客と成りうるのは中国をはじめとしたアジアの人々です。彼らのお金を東京だけではなく新潟にも落とすためにも国際交流特区を設けてビザの制限を緩和したり、免税地域を設けたりすることも検討に値します。そのためには当然、新潟空港などのインフラ整備も重要です。アジアのお客さんには成田に入国して、帰りは上越新幹線経由で温泉に浸かって、新潟空港から帰国してもらおう。そんな便利な仕掛けを創ればもっともっと多くの人が新潟を訪れてくれるはず。

# 拉致問題全面解決に向けて全力を!

このコーナーでは今後連載で拉致問題全面解決へ向けての特集を掲載して参ります。

## 特集

活動の詳細についてはHPでもご覧頂けます。

一刻も早い拉致家族 全員の帰国を!

「朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)わたしがこの国名をはじめて耳にしたのは確か小学校高学年の社会科の授業の時でした。しかし、この国名の意味する、民主主義とはいつたいなんなのでしょうか? 我が国をはじめ韓国など多くの国民を拉致し、自国のスパイ活動に協力をさせることが彼らの意味する民主主義だとしたら、それはとてもない話です。

私がこの国名を覚えてわずか数年後の1971年11月、当時、私と同じ新潟市立寄居中学校の1年生だった横田めぐみさん(当時13歳)は下校途中に北朝鮮の工作員に拉致され、既に27年もの歳月が流れました。当時14歳だった私はすでに41歳となりめぐみさんは異国の地で40歳の誕生日を迎えたのです。いまでも彼女の失踪



<昨年の参議院選挙> 横田ご夫妻から参議院選挙の応援をいただく。

当時の事は鮮明に記憶しています。私はめぐみさんと同じ通学路を通い登下校しており、自分自身が被害に遭う可能性は十分にあったと認識しています。私が拉致問題の全面解決を政治の大きな使命の一つと考えているのはめぐみさんとの関係だけによるものではありません。この問題は人権問題に留まらず我が国の国家主権としての威信に関わる問題だからです。国民の生命と財産を守ることは、政治の最大の使命です。しかしながら、我が国の政治はこの問題を実に多くの歳月に亘り放置してきました。理念の上での平和を信じてきた一方で、この国の国土が蹂躪され、国民が拉致されていた現実を見逃してしまいました。もっと早くに政治がこの問題に真剣に取り組むことができたならば、今頃、横田めぐみさん、曾我みよしさんはじめ多くの被害者の方々は祖国の土を踏むことができていたはずです。



<救う会署名活動> 「古町どんどん」で賑わう新潟市古町にて。一日も早い未帰還者全員の救出を願う活動中。

ついで先日の2月10日(木)、北朝鮮外務省は、同国の核問題に関する六カ国協議の参加を無期限中断するとの声明を発表す

ると同時に、核開発の製造を正式に認めました。北朝鮮が拉致問題の解決を核問題にすり替えようとする意図が明らかに見て取れます。これからは正念場です。政府はまず、北朝鮮に対する経済制裁について本格的な対応を進めるべきです。最近の自民党の試算でも対朝貿易を全面停止すれば最大で北朝鮮の国内総生産の約7パーセントを減らす効果があるとされ、金正日体制にダメージを与えるには充分だと考えられます。さらに拉致問題と核問題の議論を国連安全保障理事会に提起すること、北朝鮮への締め付けに国際社会が賛同するように対応すべきです。そのうえで各国が強調して北朝鮮に対して経済制裁を行うように早急に働きかけなければなりません。

横田めぐみさん早紀江さんご夫妻をはじめとする家族会の皆さんは日々命がけで救出活動を続けています。いまこそ我々日本国民の一人一人が一日も早い全面解決に向けて声を上げる事で北朝鮮に大きな圧力をかけることが可能となります。



<救う会署名活動> 馬場会長とともに活動中。

素顔のイチローを徹底レポート!

## 妻 志保の部屋



がんばれイチロー「ダイエット中」

某先輩のやせないと応援しないぞ(笑)の愛の一言に発憤し、私たちが夫婦は決死のダイエット中です。思い起こせば出会った頃の一郎は今より10キロ近く痩せていました。一郎曰く、志保の食いしん坊につき合っていたから「だそうですが、原因はともかく、健康の為に身につけている10キロの着ぐるみを脱がせるのが、妻の使命」と考え、野菜スープリダイエットを始めました。これは、1週間野菜スープを中心にして果物などを食べるというものです。効果は絶大。一週間ほぼメニュー通りに頑張ったところ3キロ落ちました。二週間目からは夜のお付き合いもあるメニュー通りとはいきませんが、野菜スープと果物などを中心とした食事を続けています。現在三週間目で体重は5キロ減りました。お腹がへこんだのは本人も驚いています。ここからも気をぬかず、10キロの着ぐるみが脱げるまで地道な努力を続けていきます。スマートに生まれ変わった一郎にこのご期待!